# 第３学年国語科学習指導案

## １　単元名　　学習したことを生かして「モチモチの木」

## ２　単元の目標

○　おくびょうな豆太が，大すきなじさまをたすけるために勇気のある行動をとり，自分に対する見方や考え方が変わったことを読み取ることができる。

○　場面の様子や主人公の行動・語り手の文末表現から豆太の様子や気持ちを想像し，中心となる言葉や文を読む読み方や場面と場面をつないで読む読み方を身に付けることができる。

## ３　単元の授業課題

○　本時の学習のめあてを前時や学習計画とつなげてとらえさせている。（②）

○　子どもが自分の考えをもったり，見直したりする活動の時間をとっている。（⑤）

○　一人一人の表情を見て，アイコンタクトをとりながら笑顔で聞いている。（⑧）

○　子どもの考えを引き出したり，明確にしたりするために問い返している。（⑭）

○　文字の大きさ，行間，色，線などを工夫して見やすく板書をしている。（㉙）

## ４　子どもの実態と授業課題

○　本学年の子どもたちは，これまでに「きつつきの商売」「三年とうげ」「ちいちゃんのかげおくり」の学習で，人物の行動に着目し様子や気持ちを読み取る学習をしている。その中で，読み取ったことをもとに行動のわけを根拠となる叙述を見つけて考えたり，それをもとに音読の工夫をしたりすることができるようになってきている。しかし，言葉と言葉をつないだり，前の場面とつないだりして人物の様子や気持ちを考えることは十分とは言えず，自分の読みをつくることに課題がある。また，話し合いの後半になると，挙手の数が減り，活発な交流とならずに一人一人の読みが十分に深められていない状況がある。

○　これまでの授業工夫改善の成果と課題から，本単元では，子どもが自分の考えをもったり，見直したりする活動の時間をとること（⑤），子どもの考えを引き出したり，明確にしたりするために問い返すこと（⑭）の二つを重点的な授業課題としたい。

　言葉をたどり結んで人物の様子や気持ちを考えることができない要因の一つとして，自分の考えを書きまとめる際の教師の手立てが十分でなかったことが挙げられる。適切な書き込みの視点を与え，一人一人が自分なりの考えを持つための時間を確保したい。その際，なかなか自分の考えを持てない子どもには，どの文や言葉に着目するとよいかヒントを与えたり，根拠となる箇所を限定して探させたりするなど個別の支援をしていきたい。

　また，一人一人の読みが深まらなかった要因として，子どもの読みのよさを受け止めて評価できていないことが挙げられる。子どもの発言を聞き取り，どの叙述から考えたのか根拠や理由を明確にする問い返しを行うことで，その読みのよさを評価し全体に広げるようにしていく。また，子ども同士の聞き合う力を高めて，話し合いの中で読みを深めさせたい。

　これらを支える基本的な構えとして，子どもの発表を最後まで笑顔で聞き，まわりの子どもたちの表情や反応をとらえるためのアイコンタクトを大切にしたい。

## ５　教材の考え方と授業の工夫改善

　本教材は，夜のモチモチの木がこわくて一人でせっちんにも行けない豆太が，じさまのために勇気を出す姿を描いた創作民話である。物語は５つの場面から成り，挿し絵や見出し，一行空きから場面構成がとらえやすい。叙述上の特質として語り手が登場し，豆太の行動が語り口調で描かれている。場面ごとに主人公豆太の行動に着目して読み進めることで，場面と場面のつながりを読む読み方を学習する物語の教材として適している。しかし，「豆太は」「豆太が」という主語が書かれた文が少ないため，主人公のしたことをとらえにくい面もある。一人一人が自分の読みをつくる際には，主語を確かにした上で豆太がしたことをとらえさせ，自分の考えを読み取りプリントに書き込む活動を大事にしたい。話し合いに際しては，「自分だったら」と自分と比べることを１つの視点として豆太の人物像をとらえさせていきたい。さらに「どこから考えたのか」「どうしてそう思ったのか」など，根拠や理由をはっきりさせる問い返しと適切な賞賛を行うことでより積極的な話し合いにしたい。そして，話し合いの中で互いに聞き合いながら，考えや読みのよさを全体に広げて読みを深めさせたい。

## ６　単元の学習計画（全１２時間）

| 次 | 時 | 学　習　活　動　と　内　容 | 指導上の留意点（※工夫改善の項目） |
|---|---|---|---|
| 読み通しのめあて | 1・2／12 | 題名と冒頭の「おくびょう豆太」をつないで読み，おくびょう豆太がどう変わるのかを予想して，読み通しのめあてを生み出す。<br>1　本時のめあてを確かめる。<br>2　題名から内容を予測し，疑問を出し合う。<br>・モチモチの木ってどんな木かな？<br>・だれがでてくるお話だろう？<br>3　冒頭のおくびょう豆太とモチモチの木の様子を挿し絵や叙述をもとに読み取る。<br>(1)冒頭を音読する。<br>(2)挿し絵と叙述から分かることを出し合う。<br>4　結びの語り手の言葉をもとに，読み通しのめあてを生み出す。<br>読み通しのめあて<br>おくびょう豆太がこれからどうなるお話だろう。（おくびょうはなおるのかな。） | ※　既習の「きつつきの商売」「三年とうげ」から学習の仕方を想起させ，学習の見通しをもたせる。(②)<br>○　題名から分かることや疑問に思うことを発表し，冒頭を読む期待感を持たせる。<br>○　小見出し「おくびょう豆太」に着目させ，豆太が物語の主人公であること，モチモチの木を豆太がこわがっていることを確認する。<br>※　豆太がおくびょうと思うところに線を引かせ自分の体験とつないで発表させる。(⑭)<br>○　冒頭の豆太の様子と語り手の「どうして豆太だけが，こんなにおくびょうなんだろうかー。」の一文に着目させて，読み通しのめあてを生み出す。 |
| 予見 | 3・4・5／12 | 読み通しのめあてをもとに全文を読み，小見出しと挿し絵を手がかりにして場面とあらすじをとらえ，自分の考えを予見として書きまとめる。<br>1　本時のめあてを確かめる。<br>2　全文を音読する。<br>(1)範読を聞く。<br>(2)音読の練習をする。<br>3　難語句・新出漢字について調べる。<br>4　場面ごとに豆太がしたことを予見①，おくびょう豆太がどうなったのかを予見②として書く。 | ※　前時に生み出した読み通しのめあてを掲示しておき，本時のめあてを意識付ける。(②)<br>○　範読を聞いて，口形や姿勢に気をつけて正しく読むことができるように繰り返し取り組ませる。<br>○　場面と場面の間の一行空き，見出しに着目させ，５つの場面で構成されていることをとらえさせる。<br>○　辞書を引いて，意味調べをさせる。<br>※　場面ごとの豆太の行動にサイドラインを引かせ，挿し絵を手がかりにしてまとめさせる。(⑤) |
| 学習計画 | 6／12 | 予見を話し合い，見直しながら，もう一度くわしく読むところを見つけて学習計画を立てる。<br>1　本時のめあてを確かめる。<br>2　予見の違いを確かめながら交流する。<br>予想される予見<br>(1)豆太は勇気のある子になった。<br>(2)豆太は勇気を出したけどおくびょうなままだ。<br>(3)豆太は，自分に自信を持てるようになった。<br>3　予見をもとに，詳しく知りたい点を出し合い，学習計画を立てる。<br>読み確かめの視点<br>・豆太はおくびょうなのか→②・③場面<br>・豆太は勇気があるのか→④場面<br>・おくびょうな豆太にもどったのか→⑤場面 | ○　予見とその理由を叙述と結びつけながら発表させる。<br>※　問い返しをしながら子どもたちに自分の予見に対する考えを明確にさせる。(⑭)<br>○　豆太が「おくびょうかどうか」がわかる文を中心文とする。<br>○　どの場面を読めば豆太が「おくびょう」や「勇気がある」がはっきりしそうか見通しを持たせる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 読み確かめ① | 7／12 | 「やい，木ぃ」のいばっている豆太は，どのくらいおくびょうなのかくわしく読んで確かめる。 | |
| | | 1　本時のめあてを確かめる。 | ※　学習計画表をもとにめあてを意識付ける。(②) |
| | | 2　本時の場面を音読する。 | ○　おくびょうな豆太が分かる文を考えながら音読をさせる。 |
| | | 3　おくびょうな豆太の様子や気持ちを考える。 | |
| | | (1) 中心文を確認する。 | ○　中心文から書き込みの視点を決める。 |
| | | (2) 豆太の様子や気持ちを考え，書き込みをする。 | |
| | | 4　書き込みをもとに，昼と夜の豆太の違いを読み取り，おくびょうな豆太について話し合う。 | ※　どの言葉とつないで考えたのか問い返し，おくびょうな豆太を確かめさせる。(⑭) |
| | | 5　本時を振り返り，どんなにおくびょうな豆太だったのか分かったことを書きまとめる。 | ※　何がもうだめなのか，夜のモチモチの木がこわいおくびょうな豆太を前の場面とつないで板書で確かめさせる。(㉙)<br>○　昼と夜の様子を比べることで分かった豆太のおくびょうぶりを書きまとめさせる。 |
| 読み確かめ② | 8／12<br>本時A組 | 「霜月二十日のばん」の豆太は，どこがおくびょうなのかくわしく読んで確かめる。 | |
| | | 1　本時のめあてを確かめる。 | ※　学習計画表をもとにめあてを意識づける。(②) |
| | | 2　本時の場面を音読する。 | ○　中心文から書き込みの視点を決める。 |
| | | 3　おくびょうな豆太の様子や気持ちを考える。 | |
| | | (1) 中心文を確認する。 | |
| | | (2) じさまからモチモチの木に灯がともる話を聞いたときの豆太の様子や気持ちを考え，書き込みをする。 | ※　何がだめなのか，じさまの話の内容とつないで書き込みをさせる。(⑤) |
| | | 4　書き込みをもとに，豆太が，はじめっからあきらめて，よいの口からねてしまった理由を読み取り，おくびょうな豆太について話し合う。 | ※　どの言葉とつないで考えたのか問い返し，おくびょうな豆太を確かめさせる。(⑭) |
| | | 5　本時をふり返り，おくびょうな豆太について分かったことを書きまとめる。 | ○　自分でおくびょうだと思っている豆太について「やい，木ぃ」とつないで書きまとめさせる。 |
| 読み確かめ③ | 9／12<br>本時B組 | 「豆太は見た」で医者さまをよびに行く豆太は，勇気があると言えるのか，くわしく読んで確かめる。 | |
| | | 1　本時のめあてを確かめる。 | ※　学習計画表をもとにめあてを意識づける。(②) |
| | | 2　本時の場面を音読する。 | ○　勇気があると分かる文を考えながら音読をさせる。 |
| | | 3　勇気がある豆太の様子や気持ちを考える。 | |
| | | (1) 中心文を確認する。 | |
| | | (2) 医者さまを呼びに行く豆太の様子や気持ちを考え，書き込みをする。 | ※　中心文のどこにどんなことを書き込むのか，書き込みの視点を明らかにする。(⑤) |
| | | 4　書き込んだことをもとに，なきなき走る豆太の様子や気持ちを話し合う。 | ※　どの言葉とつないで考えたのか問い返し，勇気のある豆太を確かめさせる。(⑭)<br>※「いたさ」「寒さ」「こわさ」のわけを色チョークを使って分かりやすく板書し，確かめさせる。(㉙) |
| | | 5　本時をふり返り，豆太の行動のどんな点が勇気があると言えるのか書きまとめる。 | ○　じさまを助けたい必死の思いで，自分のこわさをがまんして医者さまを呼びに行った行動や気持ちを勇気として書きまとめさせる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 読み確かめ④ | 10／12 | モチモチの木に灯がついたのを見た豆太は，勇気があるといえるのか，くわしく読んで確かめる。 | |
| | | 1　本時のめあてを確かめる。 | ※　学習計画表をもとにめあてを意識付ける。(②) |
| | | 2　本時の場面を音読する。 | ○　勇気があると分かる文を考えながら音読をさせる。 |
| | | 3　勇気のある豆太の様子や気持ちについて書き込みをする。<br>(1) 中心文を確認する。<br>(2) モチモチの木に灯がついたのを見た豆太の様子や気持ちを考え，書き込みをする。<br>(3) 真夜中に医者さまの手伝いをする豆太の様子や気持ちについて考え，書き込みをする。 | ○　中心文から書き込みの視点を決める。<br>※　モチモチの木に灯がついているのを見た豆太はどんな子といえるのか前の場面とつないで書き込みをさせる。(⑤)<br>※　ほかにどんなお手伝いをしたのか考えて書き込みをさせる。(⑤)<br>○　夜中に一人で外に出たことのない豆太にとって，医者さまの手伝いすべてが初めての経験であることを想像させる。 |
| | | 4　書き込みをもとに，豆太の様子や気持ちを話し合う。 | ※　どの言葉とつないで考えたのか問い返し，勇気のある豆太を確かめさせる。(⑭)<br>○　語り手の口調の変化を音読で確かめさせ，豆太の変容と成長に気付かせる。 |
| | | 5　本時学習をふり返り，豆太のどの行動に勇気があると言えるのか，書きまとめる。 | ○　じさまを助けたい思いで忙しく手伝いをする行動や気持ちを勇気として書きまとめさせる。 |
| 読み確かめ⑤ | 11／12 | 「弱虫でもやさしけりゃ」の豆太は，どんな豆太だと言えるのか，くわしく読んで確かめる。 | |
| | | 1　本時のめあてを確かめる。 | ※　前時までの学習を想起させ，じさまの病をきっかけに豆太が大きく変化したことを確かめる。(②) |
| | | 2　本時の場面を音読する。 | ○　どんな豆太といえるのか考えながら音読をさせる。 |
| | | 3　じさまを起こす豆太がおくびょうな豆太と言えるのかについて考え，書き込みをする。<br>(1) 中心文を確認する。<br>(2) じさまを起こす豆太について，書き込みをする。<br>(3) じさまの言ったことから，豆太の気持ちを考える。 | ○　中心文から書き込みの視点を決める。<br>※　じさまの会話文を音読させ，特に文末に注意して，じさまの言葉を豆太がどう感じるかを想像して書き込みをさせる。(⑤) |
| | | 4　書き込みをもとに，豆太の様子や気持ちを話し合う。 | ※　どの言葉とつないで考えたのか問い返し，自分への見方が変わった豆太について確かめさせる。(⑭) |
| | | 5　本時学習をふり返り，豆太のどの行動に勇気があると言えるのか，書きまとめる。 | ○　冒頭からの豆太の変化をつないで考えさせ，行為は同じでも，内面には変化があることに気付かせ，自分の考えを書きまとめさせる。 |
| 読みのまとめ・読み方のまとめ | 12／12 | 読み通しのめあてをふり返り，読みのまとめ・読み方のまとめをする。 | |
| | | 1　本時のめあてを確かめる。 | ○　掲示物をもとに，これまでの学習について振り返りながら，読みのまとめと読み方のまとめをすること知らせ，見通しを持たせる。<br>○　豆太の性格について自分の経験などからふり返り，考えさせる。 |
| | | 2　勇気の意味や自分への新しい見方という点からまとめる。 | ○　読み通しのめあてに戻って，おくびょうな豆太がどのように変わっていったのかふり返り，豆太に対して思ったことをお手紙として書きまとめさせる。 |
| | | 3　感想を出し合う。 | |
| | | 4　本単元での学習の仕方をふり返る。 | ○　あらすじや場面のつながりのとらえ方，書き込みの仕方などをふり返り，自分ができるようになったことを実感させる。 |

３学年Ａ組　授業者　○○　○○

## ７　本時（８／12）読み確かめ②

## ８　本時の目標

○　霜月二十日のばんにモチモチの木に灯がともる話を聞いて，はじめっからあきらめてふとんにもぐりこむ豆太のおくびょうぶりを読み確かめることができる。

○　言葉をはずして読む読み方やにた言葉と比べる読み方，場面と場面をつないで読む読み方を理解することができる。

## ９　本時の授業課題

○　一人一人の表情を見て，アイコンタクトを取りがら笑顔で聞いている。(⑧)

○　子どもの考えを引き出したり，明確にしたりするために問い返している。(⑭)

## 10　本時の授業の工夫改善の考え方

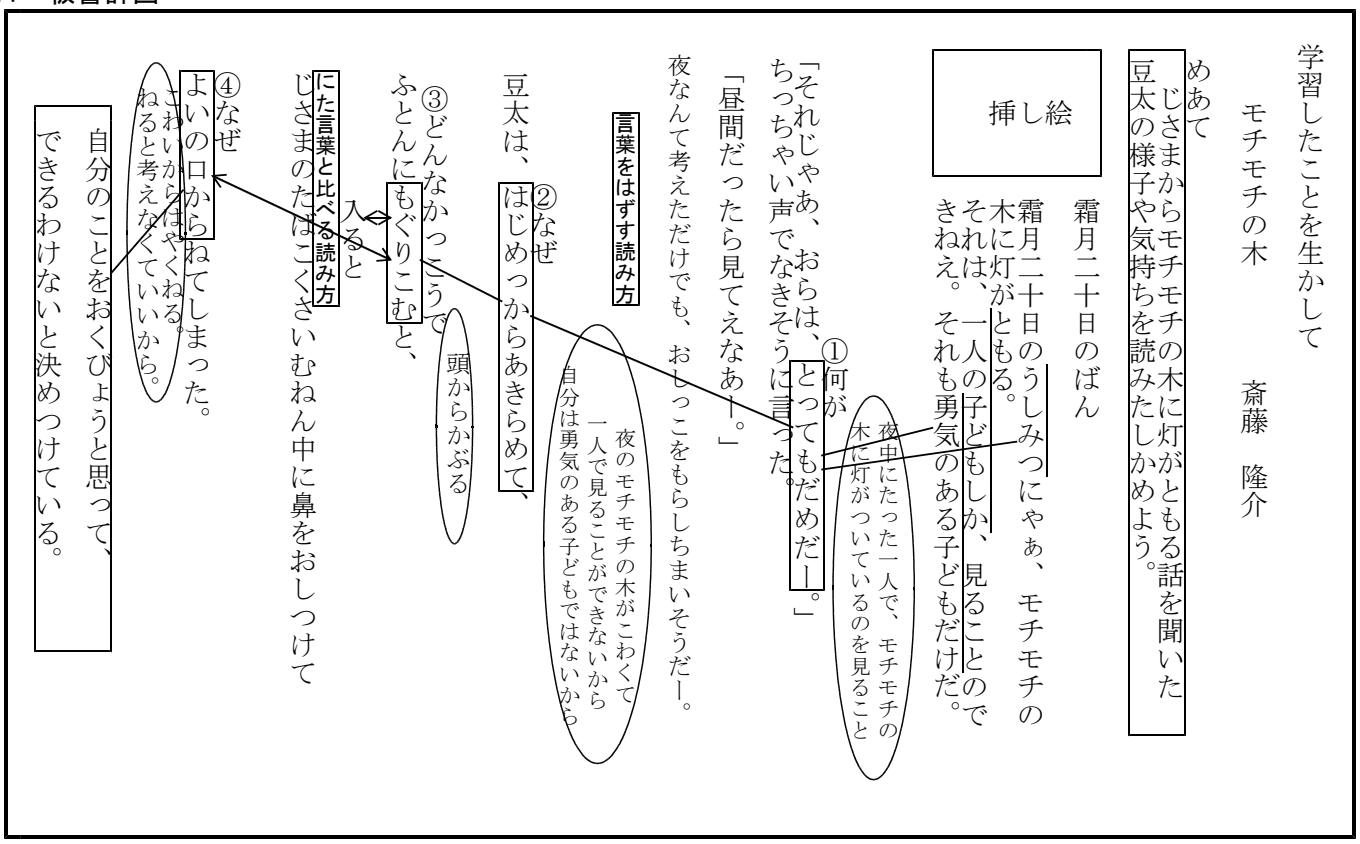
○　前時までに子どもたちは，モチモチの木に対する昼と夜の豆太の行動の違いから豆太のおくびょうぶりを読み確かめてきている。本時は，霜月二十日のばんに，モチモチの木に灯がともる話をじさまから聞いた豆太のおくびょうな様子や気持ちを読み確かめる学習である。

○　本時では，「『それじゃあ，おらは，とってもだめだー。』ちっちゃい声でなきそうに言った。」「豆太は，はじめっからあきらめて，ふとんにもぐりこむと，じさまのたばこくさいむねん中に鼻をおしつけて，よいの口からねてしまった。」の２つの文を中心文として書き込みと話し合いをさせ，豆太のおくびょうな様子や気持ちを読み取らせたい。

　書き込みでは，２つの中心文からおくびょうな豆太の様子や気持ちが分かる言葉として，「とってもだめだー」「はじめっからあきらめて」「もぐりこんで」「よいの口からねてしまった」などの叙述を引き出し，豆太の様子を手がかりに気持ちを想像させて書き込みをさせる。

　話し合いでは，子どもの発表を笑顔で最後まで聞き取り板書する。特に，前の場面の「おくびょう豆太」や「やい，木ぃ」とつないだ読みをきちんと賞賛し，そのよさを全体へ広げていきたい。また，「はじめっから」をはずして読んで，夜のモチモチの木を見ようという努力さえしない豆太の姿に気付かせていく。さらに，「もぐりこむ」と「入る」を比べて読むこと，「よいの口から」とはいつのことか考えさせることで，夜のモチモチの木をこわがる豆太の様子を想像させたい。そして，豆太がおくびょうだといえる根拠を「どこから考えたの。」「どうしてそう思うの。」と問い返して，根拠や解釈を入れた読みを子どもたちから引き出しながら，豆太のおくびょうぶりを読み確かめたい。

## 11　板書計画



12　本時の展開

| 学　習　活　動 | 指導上の留意点（※工夫改善の項目）○ |
|---|---|
| 1　前時を想起し，本時学習のめあてを確かめる。<br>学習のめあて<br>じさまからモチモチの木に灯がともる話を聞いた豆太の様子や気持ちを読みたしかめよう。 | ○　前時に書きまとめた「　日の学習で」を　介し，場面１の豆太の様子や気持ちを想起するとともに本時への意　を　める。<br>○　学習計画をもとに，本時のめあてを意識付ける。 |
| 2　本時場面を音読する。 | ○「霜月二十日のばん」の豆太のどこがおくびょうといえそうか考えながら音読をさせる。<br>○　読む姿勢や口形・句読点・正確さに気をつけながら読ませる。 |
| 3　おくびょうな豆太の様子や気持ちを考える。<br>(1)中心文を確認する。<br>「それじゃ，おらはとってもだめだー。」<br>「豆太ははじめっから　ねてしまった。」<br>(2)豆太の様子や気持ちを考えて書きこみをする。 | ○　豆太がおくびょうだとわかる中心文の言葉に着目して，疑問をつくり書き込みをさせる。<br>・「とってもだめだー」　→①何がとってもだめなのかを，じさまの話とつないで考え書く。<br>・「はじめっからあきらめて」→②何をあきらめているのか？<br>・「もぐりこむと」　→③なぜもぐりこむのか？<br>・「よいの口から」　→④なぜ，よいの口からねたのか？<br>○　　間指導を行い，書けていない子どもには，じさまの話の内容に目を　けさせたり，前時の豆太の様子を思い出させたりする。<br>○　根拠となる言葉や文とつないで豆太の様子や気持ちを読み取りントに書き込んでいる。 |
| 4　おくびょうな豆太の様子や気持ちについて話し合う。<br>(1)豆太の会話文から<br>(2)豆太の行動から | ○　　間指導をもとに読みの実　を　　し，意　　な指名を行う。<br>豆太は，なぜはじめっからあきらめているの。<br>夜のモチモチの木を見ることがこわいからです。だって，豆太は<br>自分のことを勇気があると思っていないからだと思います。<br>どこからそう考えたの。<br>じさまは，勇気のある子どもだけって言ってて　。<br>※　子どもの発表の内容をアイコンタクトを取りながら最後まで聞いて，板書に　　付ける。(⑧)<br>※　どの言葉とつないで考えたのか問い返しながら，子どもの考えとその根拠を明確にさせる。(⑭)<br>日の豆太はどんな豆太だったかな。読み確かめた豆太はどれくらいおくびょうな豆太と言ったらいいかな。<br>見ようとする努力もできないほどおくびょうな豆太です。だって　。 |
| 5　本時を振り返り,「　日の学習で」を書く。<br>(1)おくびょうな豆太について<br>(2)読み方について | ○　板書を使いながら，「霜月二十日のばん」の豆太についてどんな豆太と言えるのか読み取ったことを入れて書きまとめさせる。<br>○　　日の学習で使った読み方を　板に掲示し，確認させる。<br>(1)おくびょうだと思いこんでいる豆太について<br>(2)使った読み方について<br>○　読み確かめた豆太像について，話し合ったことを入れながら，本時に確かめたおくびょうな豆太について書きまとめることができる。 |

３学年Ｂ組　授業者　○○　○○

## ７　本時（９／１２）読み確かめ③

## ８　本時の目標

○　真っ暗で怖くてたまらない真夜中にふもとの村まで医者さまを呼びに行く行動から，大好きなじさまを助けなければという必死な気持ちと，豆太が勇気を出せたことを読み確かめることができる。

○　豆太の行動や，「いたくて，寒くて，こわかったからなぁ。」という言葉から，豆太の様子と気持ちを読み取り，前の場面と比べたりつないだりする読み方を理解することができる。

## ９　本時の授業課題

○　子どもが自分の考えをもったり，見直したりする活動の時間をとっている。（⑤）

○　一人ひとりの表情を見て，アイコンタクトをとりながら笑顔で聞いている。（⑧）

○　文字の大きさ，行間，色，線などを工夫して見やすく板書をしている。（㉙）

## 10　本時の授業の工夫改善の考え方

○　前時までに子どもたちは，モチモチの木に対する豆太の思いや，豆太のおくびょうな様子や気持ちを読み取ってきた。本時は，じさまを助けるために，豆太が前時までとはうってかわって，こわくてたまらない真夜中に勇気のある行動をとる場面である。ここでは，これまでのおくびょうな豆太とは違う，勇気のある豆太の様子や気持ちを読み確かめる学習である。

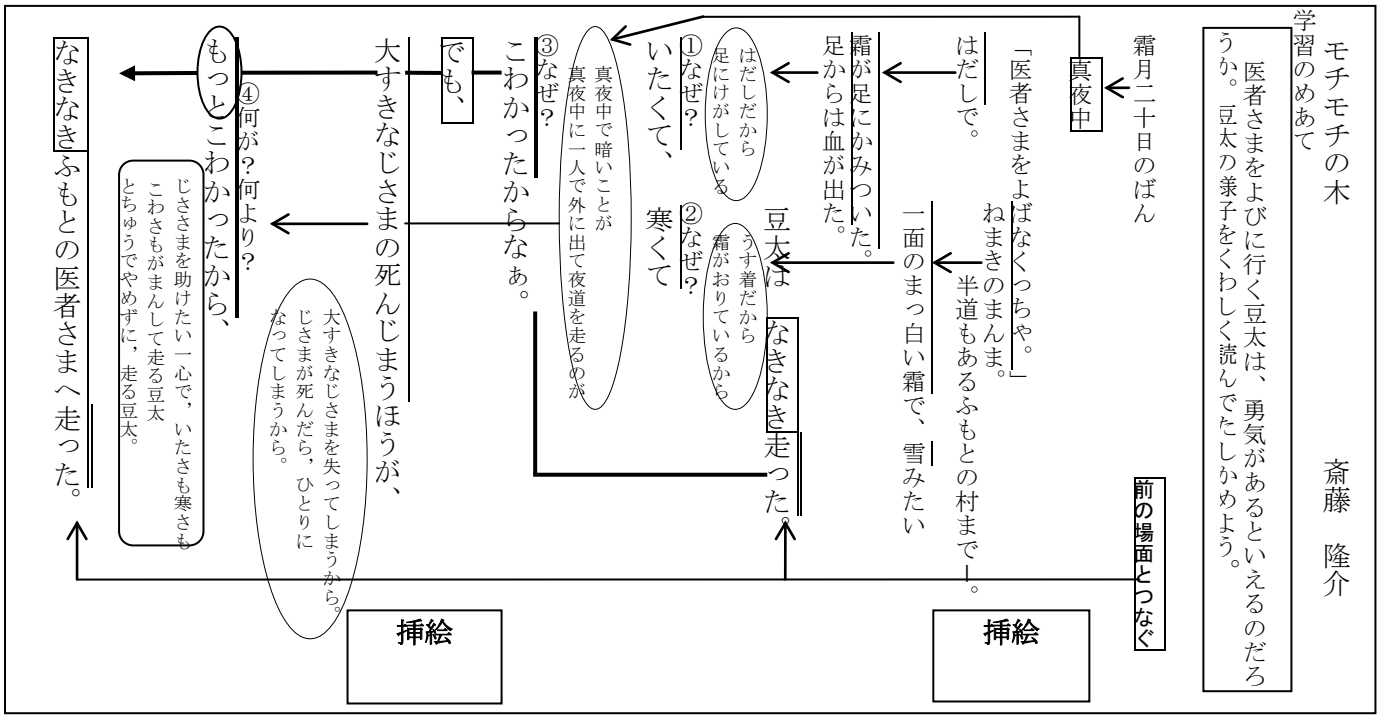
○　本時の授業では，まず学習計画をもとにめあてと中心文を確かめさせ，本時への意欲と見通しを持たせた後，本時場面を音読させる。

　次に，「豆太は，なきなき走った。いたくて，寒くて，こわかったからなぁ。」「でも，大すきなじさまが死んじまうほうが，もっとこわかったから，なきなきふもとの医者さままで走った。」という二つの中心となる文に着目させ，なぜ「なきなき走った」のかを考えさせる。

　一つ目の「なきなき走った」は，「いたくて，寒くて，こわかった」の文を，「はだしで」「霜が足にかみついて」「足からは血が出た」などの叙述とつないで読ませる。このときの板書で，どの叙述をつないだのかどの子にもわかるように，チョークの色を３色に分けて工夫したい。「こわかった」は，真夜中に初めて一人きりで外に出て，夜道を走るこわさであることに気付かせる。これらの「いたさ，寒さ，こわさ」をこらえてじさまのために「なきなき走った」ことを読み確かめていく。二つ目の「なきなき走った」では，「じさまの死んじまうほうが，もっとこわかったから」の文とつなげて考えさせ，なぜもっとこわかったのか，なによりもっとこわかったのかを「もっと」をはずして読み確かめ，豆太の気持ちを考えさせる。「大好きなじさまを失いたくない」「じさま，死なないでくれ」というじさまに対する豆太の気持ちが，豆太の「勇気ある行動」につながったことを読み確かめさせたい。

　最後に，場面を比べたりつないだりして読む読み方を確認し，本時で読み確かめたことを，板書を手がかりに，自分の言葉で書きまとめさせるようにする。

## 11　板書計画



## 12　本時の展開

| 学　習　活　動 | 指　導　上　の　留　意　点（※工夫改善の項目）㊥評価基準 |
|---|---|
| 1　本時学習のめあてを確かめる。<br>学習のめあて<br>医者様をよびに行く豆太は，勇気があるといえるのだろうか。豆太の様子をくわしく読んで確かめよう。 | ○　学習計画をもとに，本時場面の豆太は，前時までとは様子が違うことを確認し，予見をどう確かめるかを意識付ける。<br>○　「真夜中」という言葉から，前の場面「霜月二十日のばん」から続いている点に注目させる。 |
| 2　本時場面を音読する。 | ○　口形・句読点に気をつけながら読ませる。<br>○　「豆太は見た」の前半を，場面の様子と豆太の行動に気をつけてはきはき音読させる。 |
| 3　中心となる文に，自分の考えを書き込む。<br>(1)中心文を確認する。<br>①「豆太はなきなき走った。いたくて～からなぁ。」<br>②「大すきな～なきなき～走った。」<br>(2)中心文から豆太は勇気があると分かる言葉に書き込みをする。 | ※　中心となる文の叙述に問いかけ，疑問を出しながら，どことつないで読み取り，書き込むかを指示する。（⑤）<br>・　なぜ「いたくて」「寒くて」「こわかった」のか<br>・　何が・何より「もっとこわかった」のか<br>○　机間指導で，支援が必要な子どもへ助言するとともに，考えの傾向をつかむ。 |
| 4　なきなき走る豆太の思いを話し合う。<br>(1)なぜ，「いたくて，寒くて，こわかった」のか考え，発表する。<br>(2)「でも，大すきなじさまの死んじまうほうが，もっとこわかった」というのはどういうことが考え，発表する。<br>(3)豆太の様子から勇気があるといえるのはなぜか考え，発表する。 | ○　「いたさ」や「寒さ」を前の叙述とつないで読み取らせる。<br>※　「こわさ」は，モチモチの木に対するこわさと読む子どもがいると予想されるが，豆太が医者さまのところへ走っていることから見直しをさせる。（⑤）<br>※　どの叙述とつないだのか見やすいように，チョークの色分けをする。（㉙）<br>○　「もっと」をはずして読み，真夜中の道を走るより，じさまが死ぬことが「もっとこわかった」わけを考えさせる。<br>Ｔ：じさまの死んじまうほうが「もっとこわい」のは，なぜ？<br>Ｃ：大好きなじさまを失ってしまうから。<br>Ｃ：じさまが死んだら，一人ぼっちになってしまうから。<br>○　前の場面と比べたりつないだりしながら，豆太は勇気があることを読み取らせる。<br>Ｔ：豆太は，勇気があると言える？それはなぜ？<br>Ｃ：いたさ，寒さ，こわさを我慢して医者さまを呼びに行ったから。<br>Ｃ：途中でやめないで，走って医者さまをよびに行ったから。<br>※　発言している子どもだけでなく，聞いている子どもの様子にも目を配る。（⑧） |
| 5　本時を振り返り，「今日の学習で」を書く。<br>(1)読み方を確認する。<br>(2)豆太の行動のどんな点が勇気といえるのかを書く。 | ○　前の場面とつないで読むなど使った読み方を確認する。<br>○　じさまを助けたい一心で，本当はこわいのに，我慢してなきなき医者様をよびに行こうとする豆太の勇気がある様子や気持ちについて書きまとめさせる。<br>※　豆太の様子や気持ちを書きまとめやすいように，板書を工夫する。（㉙）<br>㊥　豆太のどんなところが勇気があるのか，自分の言葉で書きまとめている。 |